

議事概要記録

開催日時	平成 26 年 4 月 5 日 (土) 14 : 30 ~ 17 : 00	開催場所	和歌山県立医科大学附属 病院中検技師控室
会議種別	平成 25 年度 第 7 回理事会	議長	竹中 正人
		書記	田中 規仁
出席者 〈敬称略〉	玉置 達紀、竹中 正人、畑 忠良、木下 博之、大石 博晃、田中 規仁、 蓬台 克之、丸澤 佳子、栗林 伴有、瀧口 良重、今西 数彦、瀧谷 雅彦、脇村 小津江、 村田 正吾、勝山 浩樹 15名		
欠席者 〈敬称略〉	田中 久晴、須賀 洋、	オブザーバー	石田 茂巳
次 第			
議事概要	報告事項		
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会長報告</li> <li>2. 第 1 回常務理事会報告</li> <li>3. 事務局報告</li> <li>4. 学術部報告</li> <li>5. 経理部報告</li> <li>6. 第 35 回和歌山県医学検査学会事業報告</li> <li>7. 各種委員会報告 <ol style="list-style-type: none"> <li>(ア) 公益事業活動</li> <li>(イ) 定款・渉外</li> <li>(ウ) 精度管理</li> <li>(エ) データ標準化</li> <li>(オ) 会誌編集</li> <li>(カ) ホームページ</li> <li>(キ) 会報</li> <li>(ク) 月例行事予定表</li> </ol> </li> <li>8. 連盟</li> <li>9. その他</li> </ol>		
決議事項 及び 継続事項	審議事項		
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会報について</li> <li>2. 連盟について</li> <li>3. 事務局より</li> <li>4. 総会議案書について</li> </ol>		
決議事項 及び 継続事項	冒頭に会長から挨拶があった。		
	<p style="text-align: center;"><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">報告事項</span></p> <p>会長報告</p> <p>日臨技から通達があった第 66 回保健文化賞候補者の推薦依頼について、和臨技から 2000 年より実施している“海外人材育成事業と HIV / S T I 啓発活動”についての推薦資料を作成し、3 月末日臨技に提出した。4 月中に日臨技を通して送付され、8 月初旬の審査を経て秋には合否がわかるとのことであった。</p> <p>日臨技近畿支部・近臨技関連は特になし。</p>		

第 35 回和歌山県医学検査学会が無事に終了した。学会の様子が、熊野新聞に掲載された。

#### 常務理事会報告

日臨技・和臨技主催、検査相談・説明が出来る臨床検査技師育成講座について和臨技の方針について審議した。日臨技からカリキュラムの内容等の明確な指示や方針がなく、また流動的なため、当初理事会承認を得ていた 8 月末の開催を断念し、年末年始へ延期することとなった。

#### 事務局報告

乳がん・子宮がん検診受診の啓発 講演会に石水技師を派遣したことについて礼状が届いた。

産経新聞ピンクリボン運動広告掲載要請について、締切日が理事会に間に合わなかったことより常務理事でメール会議を行い、断ることでの結論に至った。

第 16 回和歌山糖尿病療養指導セミナーに、田中久晴理事への講師依頼があった。

診療報酬改定に伴う説明会の開催案内が日臨技からあった。

H26. 4. 2 現在の会員動向は、日臨技会員 318 名、和臨技会員 21 名、合計 339 名である。

#### 学術部報告

平成 26 年度学術部研究班体制と平成 26 年度学術部研究班勉強会の予定の報告があった。

和臨技オリエンテーションでのミニレクチャーには原梓也微生物班員から「細菌検査～グラム染色から始めよう～」、鍵弥朋子病理細胞班長から「病理検査と細胞検査技」を予定。

日臨技近畿支部学術部門員推薦について、和臨技からの推薦者報告について説明があった。各府県から推薦されたメンバーから部門長が選出されるとのことであった。

臨床検査総合部門と免疫部門の班員が少ないのではないかと指摘があった。免疫部門について、近畿支部学術部門では次年度以降に生化学との併合が決定されている。よって今期はこの少人数体制で行う旨の、班長から報告があったとのことであった。

臨床検査総合部門について、予定していた 1 名が異動した。4 月以降に再度打診し改めて返答すると班長からの報告があった、とのことであった。人数が少ないからと言って活動が消極的にならない様にと、意見があった。

#### 経理部報告

前年度会計が閉められ、総会議案書掲載にむけて処理中との報告があった。

#### 第 35 回和歌山県医学検査学会事業報告

まず、収支決算が詳細に報告された。次に学会報告について、概要等が詳細に報告された。

学会当日の受付業務や生涯教育履修について若干の不備が指摘された。次回以降には学会運営マニュアル的な物の作成も視野に含めるべきではないかとの意見があり、引き続き検討して行くこととなった。

#### 各種委員会報告

(ア) 公益事業活動 特になし

(イ) 定款・渉外 特になし

(ウ) 精度管理

25年度精度管理報告書を発送したとのことであった。

(エ) データ標準化

5月11日(日)日本臨床検査技師会館にて平成26年度・日臨技臨床検査データ標準化事業全国代表担当者会議開催の連絡があった。今期からの新任担当理事が行くことで決定した。

(オ) 会誌編集

今年度のスケジュールを次期委員に引き継ぐこととなった。投稿規定を新たに作成することが確認された。

(カ) ホームページ

都道府県別ホームページ閲覧数比較(カウンター/会員数)について詳細に報告された。和歌山は閲覧数比較上位5位であった。上位HPは内容が充実している更新状況が逐次メーリング配信されている県もあるとのことであった。更新記録を発信して閲覧者の心をつかむことが肝要であるとの報告であった。メーリングに更新情報を発信し、文面にリンクを貼ることが提案された。

(キ) 会報

62号が作成中とのことであった。今年度は63号64号を予定している。

事業担当理事には事業後に報告書を投稿して頂いているが、直接事業を担当していない理事からも逐次投稿を受け付けたい。また、勉強会等に参加した理事から担当者や企画者に投稿を促して頂きたいとのことであった。

地区理事からも地域情報を寄せて頂きたいと要請があった。

(ク) 月例行事予定表

今年度から、裏面にも広告媒体を掲載する新しいレイアウトでの行事予定表となっていると報告があった。しかし、輪転機では印刷が薄く広告媒体としては成り立たないため、従来のコピー形式での印刷を行っているとのことであった(結果的にコストは2倍)。

今年度はこの形で執行するが、次年度は表面下段広告媒体の下(最下段余白部分)に協賛メーカー一覧を記載することで、裏面広告一覧を廃止できないかと申し出があり、確認することとなった。

連盟

日本臨床検査技師連盟和歌山県支部が発足した。支部長として脇村が任命され、今後各部で組織活動(政治活動)を行うとのことであった。看護協会の政治連盟活動等の動きを参考に取り入れていきたいとのこと。

また、5月24日に東京で執行委員会が開催され、新しい方針が出されるとのことであった。

新潟の学会でブースが出ると報告があった。

#### 表彰審査委員会

常務理事会と並行して表彰審査委員会を開催した。先日の第 35 回和歌山県医学検査学会の演題から平成 25 年度学術奨励賞が選考され、日本赤十字社和歌山医療センターの小池阿木子技師が選出された。前回の委員会で決定した会長賞選考結果と共に会長へ答申し、承認しだい決定となると報告があった。

継続審議であった新人賞の創設について審議を行い、今年度の第 36 回和歌山県医学検査学会より選考を開始する事が決定した。選考基準として、「30 歳未満で過去に会長賞や学術奨励賞を受賞した者は除く」となった。新人賞創設については全会一致で承認された。

また、会長賞・学術奨励賞について再受賞はないものと決定され、全会一致で承認された。

#### 審議事項

#### 会報

行事予定表を会報巻末に掲載しているが、コスト削減として廃止してはどうかと申し出があった。会報は和臨技の記録誌的な要素があるが、掲載は不必要と全会一致した。

一方、会誌同様に会報の掲載内容の方向性を決めていく時期に差し掛かっているのではないかと意見があった。

また、投稿依頼や内容について、明確に指示してほしいと意見があった。

#### 連盟

今年度の連盟加入案内のお願いと振込用紙を、行事予定表と同時に配布して頂きたいと申し出があった。

新支部長決定ののち、2 名に支部長補佐（仮称）を委嘱するとのことであった。

#### 事務局

今後の理事会スケジュールについて提案があった。

#### 総会議案書

第 1 号から第 9 号議案まで読み合わせを行い、逐次修正を行った。

記録作成	平成 26 年 4 月 21 日	氏 名	田中 規仁	提 出	平成 26 年 4 月 22 日
------	------------------	-----	-------	-----	------------------

※ 諮問委員会で「報告書」が提出される場合、「委員会議事録」が別途作成添付される場合は添付資料で可